

2 慣用的な分詞構文

30 **Generally speaking**, Japanese cars cause less trouble. 312
一般的に言うと、日本車は故障が少ない。

31 **Speaking of** politicians, I honestly don't trust them. 313
政治家について言わせてもらえば、私は正直なところあの人たちは信用できない。

慣用的な分詞構文では、分詞句の主語と主節の主語が異なっていても、分詞の意味上の主語は表示しない。

 原理

このような分詞構文の意味上の主語は、話し手（または一般の人々）など、あえて特定する必要のない人物である場合が多い。

類例 **Strictly speaking**, a watermelon is not a fruit.

厳密に言うと、スイカは果物ではない。

Judging from his e-mail, it seems that he is in a hurry.

彼のメールから判断すると、どうやら彼は急いでいるようだ。

She is such a bright girl, considering that she is only twelve.

弱冠 12 歳ということを考慮すると、彼女は相当優秀だ。

Taking all factors **into account**, our new project was a failure.

あらゆる要素を含め考えると、我々の新企画は失敗であった。

Broadly speaking, there are five sentence patterns in the English language. 大雑把に言うと、英語には 5 つの文型がある。

Considering her age, she is really bright.

年齢を考慮すると、彼女は相当優秀だ。

2 〈with + O + 分詞〉（付帯状況）

32 She left the kitchen **with** the water **running**.

314

彼女は水を流しっ放しにしたまま台所を出て行った。

33 The teacher was thinking about something **with** his eyes **closed**.

315

先生は目を閉じて何か考え事をしていた。

〈with + O + 現在分詞 [過去分詞]〉は〈付帯状況〉を表すのに使われる。

現在分詞の場合は「O が…している状態で」という能動的な意味。(32)

過去分詞の場合は「O が…された状態で」という受動的な意味。(33)

どちらも、O と現在分詞または過去分詞の間に意味上の〈主部+述部〉の関係があることに注意。

類例 She stood still **with** her eyes firmly **fixed** on the door.

彼女はドアをしっかりとにらみつけたまま立ち尽くしていた。

Bob sat on the chair **with** his legs **crossed**.

ボブは足を組んでソファーに腰掛けていた。



【!】 分詞の代わりに形容詞や副詞が使われることもある。

Mary waved goodbye **with** a bag **full of souvenirs**.

マリーは土産物をいっぱいに詰めたかばんを手にして、お別れに手を振った。

It's cold outside. You should go out **with** your jacket **on**.

外は寒いぞ。上着を着て出かけたほうがいい。

【!】 同様の構文が「理由」を表す場合もある。with 以下に 一時的な状態 が示されているからである。With his health **declining** so rapidly, we had to call for a doctor at once. 彼の健康状態が急速に悪化していたので、私たちはすぐに医者を呼ばなければならなかった。

Grammar in Writing

準動詞による過度な「省エネ」に要注意

英作文をしていると、「複雑な構文は避けて、できるだけ簡単に言ってしまいたい」と思うものです。そう思うこと自体は自然ですし、実際、言葉には「省エネ」を好む傾向がある、理由がない限りは簡単に言えるものをわざわざ難しく言うことは避けるものです。たとえば、

1a) Do you know the place in which my house is located?
私の家が位置している場所を知っていますか。

よりも、

1b) Do you know where I live? 私がどこに住んでいるか知っていますか。
1c) Do you know my address? 私の住所を知っていますか。

の方がよほど普通の表現です。

そして準動詞は、こうした省エネのために使うことができます。

2a) If we buy a new machine, it will be the fastest solution.
新しい機械を買えば、それが最も早い解決策だ。
2b) Buying a new machine will be the fastest solution.
新しい機械を買うことが最も早い解決策だ。
3a) According to the schedule, we will have a meeting from three o'clock.
予定では3時から会議がある。
3b) We are to have a meeting from three o'clock.
3時から会議があることになっている。



ところがこうした「省エネ機能」を拡大解釈すると、意味の通じない英文ができてしまいます。たとえば高校生の英作文でありがちな誤文に次のようなものがあります。

4) × To do these things, the situation gets better.

これは何を言いたい英文なのでしょうか。2通りくらいは可能性がありそうです。

4a) In order to do these things, the situation must get better.
これらのことをするためには、状況が改善しなければならない。
4b) By doing these things, the situation will get better.
これらのことを行うことで、状況は改善するだろう。

特に4b) のように、by doing を使うべきところで to do を使う誤用はよく見られます。

おそらく I am glad to hear that. (それを聞いてうれしい) の用法を拡大解釈した誤りと思われます。

5a) × You can help those people to do what you can.

5b) You can help those people by doing what you can.

自分でできることをすることで、 その人たちを助けることができる。



省エネのつもりで、「存在しない英語」を作らないように気を付けましょう。
